第二節　毒瓦斯使用禁止規則

第一項　軍備制限總委員會第十六回會議（一月六日）

「ヒューズ」報告

一、第十六回委員會ニ於テ潛航艇ニ關スル討議ヲ終了セル後議長（chairman, Hughes）ハ瓦斯使用問題卽チ化學的戰爭手段ノ問題ニ就テ各出席委員ノ注意ヲ促シ五大國ノ代表者ヨリ成ル分科委員カ既ニ該問題ニ關シテ討議スヘク任命セラレタル所右分科委員會ハ或種ノ點ニ就テ一致――覺書ニ依レハ殆ント滿場一致――シタルコトヲ通告セリト述ヘ其ノ一致ノ諸點ヲ敍說セル覺書ヲ次ノ如ク說明セリ（但シ分科會ノ報告ト內容ニ於テ大差ナキモ文句ニ於テハ相違アリ）（第四章第三節第四款參照）

曰ク「委員ハ次ノ諸點ニ於テ殆ント異議ナク一致セリ」

（イ）化學的戰爭用瓦斯ハ準備ナキ軍隊ニ對シテハ極メテ大ナル力ヲ有スルカ故ニ如何ナル國家ト雖モ自國ニ瓦斯使用ノ準備ナキヲ知レハ不法ナル敵國ハ破約スルノ恐アルカ如キ協定ヲ爲スノ危險ヲ冒ササルヘシ

（ロ）高度ノ爆發物ハ戰爭用瓦斯ト同一ナル效果ヲ有スル瓦斯ヲ發生セシムルヲ以テ戰爭用瓦斯ノ使用ヲ禁止セントスル企圖ハ戰時ニ於テハ誤解ヲ惹起スヘシ換言スレハ瓦斯カ其ノ儘用ヒラルルヤ又ハ爆發物ノ結果生シタルモノナルヤノ區別ハ甚タ不明ナリ此ノ事實ハ種々形式ヲ變ヘタル戰爭用瓦斯ヲ使用スルコトニヨリ毒瓦斯攻擊ニ口實ヲ與フルニ至ルヘシ

（ハ）新ナル戰爭用瓦斯ヲ發見スルニ至ルヘキ研究ハ之ヲ禁止又ハ取締ルヲ得ス

（ニ）戰爭用瓦斯ノ平時ニ使用セラルルモノ增加スルヲ以テ一部ノ特殊瓦斯ノ製造ヲ禁止スル事ハ不可能ナリ或ハ特殊瓦斯ノ製造量ヲ制限スヘシトノ意見アリタルモ多數ハ之ニ反對ナリ

（ホ）戰爭用瓦斯使用ヲ制限スルコトハ高度ノ爆發物等ノ制限ト同樣可能ナリト雖モ爆發物ノ場合ヨリモ更ニ困難ナリ

米國諮問委員會ノ報告

本問ニ關シテハ後述ノ場合ト同シク瓦斯ニ關スル智識豐カナラサル日本及伊國ノ委員ヨリモ瓦斯ノ事ニ關シ更ニ精通セル英、米、佛ノ委員ニ於テ其可能性ヲ疑フコト尠カリキ

（ヘ）瓦斯ノ種類及其人類ニ對スル影響ヲ以テ制限ノ根據トナスヲ得ス換言スレハ都市及多數非戰鬪員ニ對スル之カ使用ハ禁止スルコトヲ得ヘキモ敵國軍隊ニ對シテハ其使用ヲ海陸何レニ於テモ制限スルコトヲ得ス

（ト）戰爭用瓦斯カ榴散彈、機關銃、爆發物、飛行機用爆彈、手擲彈ノ如キ戰爭手段ニ類スル手段タリヤ否ヤニ關シテハ委員ノ說分レタリ瓦斯ニ關スル事情ヲ熟知セル英米佛ノ委員ハ毒瓦斯カ惟ノ從來ノ手段同樣戰爭手段タリ得ルコトヲ熱心ニ主張セリ

二、右說明ノ後議長ハ更ニ米國諮問委員會ノ報告ヲ朗讀セリ（第四章第二節第六款參照）

三、議長ハ上述ノ決議ハ米國代表ノ諮問委員會ニ於テソノ分科會カ提出セル際滿場一致採用セル所ナル旨ヲ述ヘ尙ホ諮問委員會報告中ニ此毒瓦斯分科委員會ハ諮問委員會ト合同シテ陸軍々備ノ問題ヲ論議シタル旨ヲ附加セルカ余ノ入手セル諮問委員會ノ陸軍々備ニ關スル分科會報告ニハ化學的戰鬪手段ニ關シテ次ノ如ク報告セリト述ヘタリ

「化學的戰鬪手段ハ文明ヲ害スルカ故ニ諸國家ノ間ニ廢止セラルヘキモノナリ是科學ノ不當慘酷ナル濫用ナリ之レ非戰鬪員ニ對シ重大ナル危險ヲ及ホスノミナラス人類ノ高等ナル本能ヲ墮落セシムルモノナリ

米國海軍將官會議報告

四、議長ハ更ニ此報告書カ諮問委員會ノ陸軍軍備ニ關スル分科委員會議長「パーシング」將軍（John, J. Persling）署名シ且諮問委員會ニ於テ可決セルモノナリト述ヘ猶瓦斯禁止問題ニ關スル左ノ如キ米國海軍將官會議（General Board）報告ヲ參考ノ爲朗讀セリ

質問　瓦斯戰鬪ハ禁止セラルヘキヤ

回答　然リ

右說明

(1) 米國ハ瓦斯ヲ戰鬪手段トシテ使用スルコトヲ禁止スルニ於テハ物質的利益ヲ放棄スルモ之ヲ非トセス瓦斯ノ武器トシテノ效力ノ偉大ナルハ明カニ證明セラレタリト雖モ此ノ禁止希望ハ米國ノ輿論ナルヘシ

(2) 近代戰爭法規ノ趨勢ハ不必要ナル苦痛ヲ生セシムル武器ノ禁止ニ向ヘリ「ダムダム」彈ハ此ノ好適例ナリ此ノ一般的原理ニ依リ瓦斯モ亦禁止セラルヘキナリ

(3) 瓦斯戰鬪ハ從來ノ方法ト全ク異リ本來ノ目標ヲ越エテ慘虐ヲ及シ且非戰鬪員マテヲ犧牲ニセリ故ニ致命的瓦斯ハ禁止セラルヘキナリ

(4) 戰爭ニ於ケル二原理

(A) 戰鬪力ヲ破壞スル際ニ於ケル不必要ナル苦痛ハ廢止セラルヘキコト

(B) 善良ノ非戰鬪員ヲ害スヘカラサルコト

此ノ二原理ハ百年以來文明諸國ノ承認シ來レル所ナリ故ニ世界戰爭ノ實用ニ供セラレタルヲ理由トシテ瓦斯戰ヲ許容スルハ世界ノ反對ヲ招致スルモノナリ

(5) 致命的瓦斯竝ニ不必要ナル苦痛ヲ生スル瓦斯ト單ニ正當ナル用法ニ於テ用ヒラルル瓦斯トノ區別ヲ明確ニ定ムルコトハ困難ナリ從ヒテ其ノ孰レヲ問ハス瓦斯戰鬪手段ハ禁止セサルヘカラス

(6) 將官會議ハ (General Board) 不必要ナル苦痛ヲ避クル範圍ニ迄瓦斯ヲ制限シ其ノ法規制定ヲナスノ困難ナルヲ知了セリ然レトモ瓦斯戰ハ文明ソノモノノ存在ヲ危フスルモノナリ

(7) 將官會議 (General Board) ハ使用ノ形式ノ如何ト右禁止反對ノ如何ヲ問ハス絕對ニ瓦斯戰ヲ禁止スルカ最モ健實ナル政策ナルヲ信シ然ク勸告ス

ユー・エル、ロッツチャース (U. L. Badgers)

名

五、議長ハ戰爭ニ於ケル瓦斯使用ニ關スル以上ノ言說ニ對シテハ何等ノ附加ヲ要セス要スルニ窒息スヘキ瓦斯又ハ毒瓦斯ハ絕對ニ禁止スヘキモノナリトテ「ルート」ニ右ニ關スル決議案ヲ起草センコトヲ求メタリ

六、「サロー」ハ其ノ謄寫ノ廻覽ヲ求メタルニ議長之ニ贊シ「ルート」ヲシテ閉會前ニ其ノ決議案ヲ提出セシム

七、「ルート」

本件ニ關シ決議案ヲ提出スルニ際シ右ニ關シテハ既ニ國際間ニ見解ノ一致セルモノアリトテ先ツ「ヴェルサイユ」講和條約第一七一條第一項及第二項ヲ朗讀セリ

「窒素性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニヨリ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴禁ス前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス」

氏ハ此ノ條文ヲ見ルモ瓦斯ノ禁止カ海牙條約以來各國ノ宣言トシテ承認セラレタルコトカ明カナリトテ條約ノ文言ニ從ヒ次ノ如キ決議案ヲ提出セリ

"The use in war of asphyxiating, poisonous or analogous liquids or other gases and all materials or devices having been justly condemned by the general opinion of the civilized world and a prohibition of such use having been declared in treaties to which a majority of the civilized Powers are parties.

"Now, to the end that this prohibition shall be universally accepted as a part of international law binding alike the conscience and practice of nations, the signatory Powers declare their assent to such prohibition, agree to be bound thereby between themselves and invite all other civilized nations to adhere thereto."

八、「シャンツエ」氏及「バルフォア」氏之ニ同意シ唯種々ノ誤解ヲ除カンカ爲ニ可及的早ク報告案、決議案其ノ他提案ヲ

回送センコトヲ求メ議長ノ返答アリテ閉會セリ　以上

第二項　軍備制限總委員會第十七回會議（一月七日）

「サロー」一、議長ノ德川公爵ニ對スル送別ノ辭アリタル後毒瓦斯使用禁止ニ關スル決議案ノ審議ニ入ル

二、「サロー」氏ハ先ツ「ルート」氏決議案ニ贊辭ヲ呈シ佛蘭西ハ最初ヨリ獨逸カ最近戰爭ニ於テ輸入セル野蠻ナル發明、行爲、瓦斯、燃燒液體、有毒物等ヲ使用スル新手段ニ反對ナリキ此會議ニ於テ第一ニ爲スヘキハ此等ノ行爲ノ魁ヲナセルモノヲ公ニ且ツ嚴肅ニ排議スルニアリ吾人ハ將來此等厭ムヘキ行爲ノ戰場ヨリ絶滅センコトヲ希望シ且努力セサルヘカラス

右ハ必ス他ノ諸國家ニ範ヲ垂ルルコトニ依リテ之ヲ達成シ得ヘシ專門家ノ報告書ニハ此等有毒瓦斯及化學品ノ脅威及使用ニ對シテ實際的ノ豫防ヲナスハ不可能ニハ非ストスルモ尠クトモ非常ナル困難ナルコトヲ指摘シタリ蓋シ瓦斯及有毒物ノ製造ニ使用セラルル此等化學品ハ亦人類ノ工業的平和的生活ニ必要ナル日用品ノ爲ニ使用セラルルモノナルコトハ疑フヘカラサル事實ナレハナリ又專門家ノ報告ニ依レハ武器トシテ使用セラルルコトアルヘキ瓦斯ノ製產ニ關シテ有效ナル監視ヲ施行スルコトハ不可能ナリトイフ卽チ此ノ如キ製產ヲ豫防シ制限スルコトハ不可能ナリト斷セサルヲ得ス之レカ歸結トシテ大戰爭中其ノ例アリシカ如ク祕密ニ準備シ以テ不意打セントスル不法ナル敵國ノ此等瓦斯ノ不正使用ニ對シテ國家カ豫メ武裝セントスルヲ妨クルコト能ハサルナリ

此ノ如ク監視ハ目下ノトコロ實際上不可能ナリト雖モ「ルート」決議案ノ有益ナルコトハ明カナリ蓋シ茲ニ會同セル列强間結合ノ契リトナリヤカテハ他ノ一切ノ國家カ之ニ參加スルニ至ルヘキヲ以テナリト述ヘタリ

「バルフォア」三、「バルフォア」氏ハ本提議ハ國際法ノ原則ノ確認ニ過ス此意義ニ於テ何等新ナルモノナシ多數ノ國カ休戰以來締結セル各種ノ條約ニ於テ明示的又ハ默示的ニ本決議ノ已ニ國際法ノ一部ヲナセルモノナルコトヲ聲明シタルコトハ本決議自身ニ指摘セラレタル北米合衆國ハ此等諸條約ニ批准セサリシト雖モ別ニ其締結セル單獨條約ニ於テ之ヲ承認セリ加之赤

十字社ノ質問ニ對シ千九百十八年三月同盟及聯合諸國ノ回答シタル宣言ニ於テモ明瞭ニ此ノ原則ハ承認セラレタリ此等ノ形式的宣言ノ背後ニハ二回ノ海牙平和會議ノ決定アリ此等ノ決定ハ北米合衆國ノ批准スル所トナラサリシト雖モ該會議ニ列席セル他ノ一切ノ列强ノ承認スル所ナリ合衆國亦好意ヲ示セルハ疑ヒナキ所トス斯ノ如ク吾人ノ目前ニアル文書ハ國際法ニ對シテ何等ノ變化ヲ生セシムルモノニ非スト解シテ誤ナカルヘキヲ信ス

右ヲ潛水艦ノ問題ト比較論評スルニ潛水艦ニ關シ各國ハ明文ヲ以テ何カ法タルカヲ卽チ何カ軍艦ノ商船攻擊ニ關スル國際法タルカヲ聲明シタリ且ツ進ンテ現在爲シ得ル所以上ニ歩ヲ進メ國際法ノ擴張ヲ謀レリ卽チ各國ハ現在ノ國際法規ニ拘束セラルルコトヲ約シタルニ止マラス國際法ノ背後ニ存スル制裁ヲ變更シ以テ違反者ヲ海賊トシテ處罰セントスル第四條ノ規定ヲ見ルニ到レリ斯ノ如ク各國ハ潛水艦ニ關シテハ現在ニ於ケル實際以上ニ進ミタリ然ルニ此ノ場合ニ於テハ唯現在國際法ヲ認ムルノミ誰モ否認セサル原則ヲ認ムルノミ然レトモ有毒瓦斯使用ノ發展ニ思ヒ及ハハ余ハカカル規則ノ重大貴重ナルヲ疑ハス

勿論其背後ニ制裁ヲ伴ハサル單純ナル法ノ確認ノミヲ以テシテハ不法ナル國家ニ對スル豫防ヲ免ル能ハサルコトハ這次ノ大戰ニ顧ミテモ明カナリ華盛頓ニ於ケル專門家ノ言ニ依ルモ「ジェネバ」ニ於ケル國際聯盟ノ委員會ノ調査ニ依ルモ斯ノ如キ傾向アル國家ヲシテ戰爭勃發ニ當リ非人道的方法ヲ使用セサラシメンカ爲平時ニ於ケル其ノ準備ヲ取締ルコト不可能ナルコト明瞭ナリ從ツテ斯カル攻擊ニ對スル用意ハ何國モ之ヲ怠ルコトヲ得サルナリ又英國ハ潛水艇廢止ヲ希望シタリシカ不可能ナリトセラレタリ而シテ有毒瓦斯ヲ無制限ニ製造スル工場ヲ閉鎖スルコトモ亦斷シテ不可能ナリ故ニ其ノ濫用ニ對シテ豫防セサルヘカラス本決議案ヲ以テシテモ有毒瓦斯ニ關シ世界ニ對シテ完全ナル保障ヲ與ヘ得ス然レトモ之ヲ以テ無用ナリトハ云ヒ得ス新ニ制裁ヲ設ケテ不法ナル國家ノ不正使用ヲ禁壓スルコトヲ得スト雖モ既ニ承認セラレタル規則ヲ反覆スルニ過キサル空文ナリト云フヘカラス有毒瓦斯ハ文明國間ニ許容スヘカラサル武器ナリトノ良心ヲ確固タラシムルコトヲ得ルニ於テハ之レ重要ナル進歩ナリ世界ノ輿論ノ威力ハ這般ノ大戰ニ於テ殊ニ米國ノ場合ニ於

ヲ之ヲ實驗セリ如何ナル國家ト雖モ世界ノ輿論ニ反抗シテ確認セラレタル規則ヲ蹂躙スルカ如キ輕擧盲動ヲ敢テスルモノナカルヘク斯ノ如キ行爲ニ出ツルトキハ文明世界ノ憤激ヲ買フニ至ラント述ヘテ「ルート」案ニ贊成セリ

四、加藤男

有毒瓦斯ノ問題ハ充分ニ討論セラレ且之ニ關スル意見ハ今ヤ頗ル明ニセラレタリ故ニ反覆シテ時間ヲ空費スルヲ欲セス單ニ日本全權トシテ「ルート」氏決議案ニ對シ贊成ノ意ヲ表明スト述フ

五、議長ノ採決ニヨリ全會一致之ヲ可決セリ

第三節　條約ノ成立

第一項　第二十回軍備制限總委員會

（千九百二十二年一月三十一日午後三時三十分）

一、第二十回總委員會ニ於テ海軍條約ノ審議ヲ了シタル後議長「ヒューズ」ハ「ルート」ノ提議ニ係ル潛水艦ノ使用法規ニ關スル決議及毒瓦斯禁止ニ關スル決議ヲ一括シテ一條約案トナシ且其ノ佛文ハ「カムレル」(Kammerer)氏ノ協贊ヲ經タル旨ヲ述ヘ本條約案ニ付異議ナクハ之ヲ明日ノ總會議ニ提出セムト欲ストテ條約案ヲ朗讀ス

終テ議長ハ本條約案ニ付何等意見アリヤト諮ル

二、「バルフォア」立チテ今朝英國代表ノミノ會議ニ於テ議論トナリタル所ナリト前提シ本條約案ハ本委員會列席ノ諸國ノミノ間ニ於テハ極メテ其ノ關係明白ナルモ締約國ノ中ノ一國カ他ノ締約國ト戰爭ヲ開始シ其ノ締約國カ非締約國ト同盟セル場合ニ於テハ困難且不明ナル結果ヲ生スヘシ此點ニ付「ルート」氏ノ御意見ヲ承リ度シト述フ

三、仍テ「ルート」氏ハ本問題ハ非締約國タル其ノ相手方カ本條約ヲ適用スルコト能ハサル程度ニ兇暴ヲ敢テスルヤ否ヤニ依テ決スヘク主トシテ事實問題ナリト說明ス

四、「シャンツエ」氏ハ右「ルート」氏ノ說明ハ極メテ重大ナル了解ヲ構成スルモノナルヲ以テ議事錄ニ留ムルノ必要アリト主張ス

五、議長ハ之ヲ議事錄ニ留ムル旨ヲ宣シ次テ本條約案ヲ二月一日ノ總會議ニ報告スルノ件可決

六、「サー、ジョン、サルモンド」ハ海軍制限條約及潛水艦毒瓦斯使用法規ニ關スル條約ニ各々Naval Treaty of Washington, Declaration of Washington (Declaration of Paris, Declaration of London ニ倣フ）ト命名スヘキ旨提議セルモ議長ハ强テ命名ノ要ナク一般公衆ノ稱呼ニ委スヲ可トスト述ヘテ反對シ結局否決

非締約國カ參加戰爭ニ至リタルニ場合ノ本條約ノ效力